

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価  (1月22日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程学習指導	①教科学習と課題研究の相乗効果による「知の循環」を恒常的なものにするために、調和のとれた学習機会と環境を提供する。  ②「主体的・対話的で深い学び」を恒常的なものとし、生徒の資質・能力の伸長につなげるために、組織的な授業改善に取り組むとともに、指導と評価の在り方についての更なる研究をする。	①SSH指定校、STEAM教育研究推進校として、探究活動や教科横断的な視点を取り入れた授業を継続的に実施することで、「知の活性化」の促進と、論理的思考力や科学的思考力を伸長する。  ②今年の学校テーマを定め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、指導と評価の一体化の視点を取り入れた授業について引き続き研究する。	①65分授業の導入と定着により教科学習・課題研究と特別活動・部活動との時間的なバランスを調整することで、生徒の協働的な活動と自学自習の機会を確保する。 ①教科等横断型の学びに繋がる教員研修を、教科を超えて行う。  ②授業見学や研究授業等、教員相互の授業研究の機会を組織的に計画する。	①SSH事業・STEAM教育に係る校内体制、実施計画を適切に作成し、実践できたか。また、生徒の主体性を引き出す授業形態を実践できたか。 ①教科等横断型の学びに繋がる教員研修を実施できたか。  ②「生徒による授業評価」「リフレクションシート」等に授業改善の成果が見られたか。 ②授業改善をねらいとした教科会を定期的に実施したか。 ②職員全員が研究授業等を実施あるいは参観し、研究協議に参加したか。	①SSH事業・STEAM教育に係る業務の方針・進捗をSSH推進委員会で適宜確認し組織的に実施することが出来た。 ①Softbankと連携し、AIを用いた授業案作成を行い、教科横断型の学びに繋げることが出来た。 ①担当者によるSTEAM教育実践と職員全員による事後研修を行い、授業力向上に繋げることが出来た。 ①65分授業の運用により、課題研究や特別活動・部活動を充実させながら生徒の協働的な活動の機会を確保することができた。 ②教科等横断の視点を取り入れた公開授業を実施し、他校からの参加者を交え、全職員で研修会を行い、教科等横断型の学びに対する議論を深めた。 ②定期的な教科会の実施と教員相互の授業見学により、指導と評価の一体化の視点を取り入れた授業改善に取り組んだ。	①STEAM教育実践の機会をスポット的にするのではなく、日常の授業内に落とし込む必要がある。 ①教科等横断の視点を取り入れた授業実践を根付かせる。 ①生徒がAIを活用する際の指針や、成果物の評価方法を開発する必要がある。  ②公開授業や教員研修により論理的思考力や科学的思考力の向上につながる題材の発掘と研究を継続する。  ②授業改善に向けた教科会や教員相互の授業見学の組織的な定着と活性化を図る。	SSHおよびSTEAM教育研究推進校に指定されており、教科等横断型の授業の実施に努めている。電子黒板の導入などICT機器も整備されており、大半の教員がICTを有効に活用した授業を行っている。また、65分授業を導入したことにより、部活動なども充実した活動ができており、教育活動のバランスも取れている。	①65分授業の運用により協働的な学びの確保と部活動の充実を図ることができ、バランスの取れた教育活動を行うことができた。  ②教科等横断型授業実施に向けた研修・議論の場が充実してきている。今後、より一層教科横断型の学びを発展させ、SSH事業との連携を図る必要がある。	①教科等横断的な視点を取り入れた授業の実施にあたり、研修・議論の場を年間を通して設けクロスカリキュラム表を開発し、生徒が科目間のつながりを実感できるようにPrincipiaや通常授業の中に落とし込んでいく。  ②教員相互の授業見学や他校も含めた公開研究授業の見学と情報共有の活性化を図る。
2	(児童・生徒・幼児)指導支援	①特別活動や部活動の活性化や充実を図るとともに、生徒が学校生活に主体的に取り組むことで、校訓「自主自律」の精神を育むことができるよう支援する。  ②教育相談について、校内の情報共有が迅速かつ確実に行われるような体制を構築するとともに、SC・SSWや外部機関との連携を強化し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	①6月に実施される文化祭及び10月に実施されるスポーツフェスティバル等において、生徒主体の運営を目指し、生徒の指導力や他者を尊重する姿勢を育成する。  ①部活動の更なる活性化を目指し、様々な活動を通してバランスの取れた人間性を育む。  ②困難を抱える生徒に対して、迅速かつ適切な支援を行えるよう、校内の教育相談体制を強化する。	①文化祭・スポーツフェスティバル等の学校行事の実施について、生徒が積極的に企画・運営に携わる機会を設け、リーダーシップを発揮できるよう支援する。 ①部活動が充実するよう、顧問・インストラクターの配置や活動時間の確保など環境を整える。  ②各学年の生徒情報の共有を定期的かつ確実に行い、適切な支援につなげる。 ②今年度2年目を迎える「サポートドック」をより効果的に実施し、生徒の支援につなげられるよう検討する。	①各行事の実行委員生徒が、生徒主体で企画・運営を行えたか検証するとともに、次年度へ向けての改善点を振り返ることができたか。  ①加入率95%以上を維持し、安全に配慮した円滑な部活動運営ができたか。  ②校内の情報共有体制は適切に機能していたか。また、SC・SSWや外部機関との連携は適切に行われたか。 ②「サポートドック」の活用により、支援を必要とする生徒の発見につなげることができたか。	①文化祭が6月に移動して初めての実施であったため、スケジュール管理等が難しかったが、生徒主体による企画・運営ができた。 ①新しくスポーツフェスティバルを10月に開催し、成功させることができた。 ①部活動の加入率は9割超を維持し、活発な活動が見られた。  ②教育相談コーディネーターと養護教諭、SC・SSWとの連携を密に行えた。 ②「サポートドック」の実施と担任による面談の時期を連動させ、より効率的で効果的な支援を行うことができた。	①来年度は体育祭が初めての6月実施となるため、その準備の際に生じる課題に対応する。  ①文化発表会が10月に初めて実施されるため、充実した行事となるよう支援する。  ②若手教員に対して、教育相談の視点による研修の機会を設ける。 ②困難を抱える生徒に対して、適切な支援を行えるよう情報共有を確実に行う。 ②SC・SSWとの振り返り時間を確保する。 ②新たな通信制の制度の定着に向け、不登校生徒の支援に係る内規やシステムの見直しを行っていく。	生徒の意見も十分に取って入れて年間行事の見直しを柔軟に行ったり、文化祭を生徒主体で実施したりするなど、生徒の自主性を重んじ、生徒の成長を支援している。生徒の海外研修や留学生の受け入れなど、国際性育成も図っている。また、不登校・長期欠席生徒などへの対応も、通信制活用のために内規を整理して運用している。	①6月実施の文化祭については、生徒主体の体制の下、新企画を行うなど生徒の自主性を尊重しながら行えた。令和7年度は体育祭の6月移行を控えているため、更に生徒の成長を促せるよう支援を行う。 ②生徒の抱える問題の多様性に対応するため、教育相談体制の充実化を図った。 ②通信教育制度を教務内規に追加し、不登校・病気療養中等の生徒の単位認定に向けた取組を実施した。	①学校行事を通して生徒の企画力や実行力の成長を促すことができるよう柔軟に支援していく。  ②問題を抱える生徒への対応を迅速かつ細やかに行えるよう、担任、教育相談コーディネーター、養護教諭、SC・SSW等との情報共有を一層密に行う。
3	進路指導・支援	①生徒がライフキャリアの視点に基づく進路希望を持ち、それを実現させる力を全教育活動において育成できるよう進路指導・支援の体制を築く。また、生徒の主体的な取り組みを支	①全学年の生徒に対し、高い志望を持ち、すべての学校生活と学習の意義を理解し、主体的に取り組む態度を育成する。  ②学習から生活指導まで進路指導に係るす	①上級校での学びや自己実現への意欲から進路を選択し、高い志望を維持する進路指導を行えるようキャリアガイダンスルームを再整備する。  ①教員対象の研修や研究会を活性化する。また、保護者や生徒への情報発信を積極	①キャリアガイダンスルームの利用状況が向上したか。  ①難関大学の志望者及び受験者が増加したか。総合型選抜の受験者数が増加したか。	①キャリアガイダンス室の資料を精選し、より高い志望を促す環境へと改良した。併せて、利用法や資料の活用について指導し、生徒の自律的な利活用につなげた。  ①SSHの成果を生かした総合型選抜受験者が増加した。また、学校推薦型(公募制)の出願・合格も増加した。	①生徒の自習に利するため自習室の資料を充実させることを目的に、キャリアガイダンス室の整備を考えていく。  ①総合型選抜や学校推薦型選抜の受験を始め、キャリア教育の視点から高校生活の振り返りを系統的に進める。	生徒の進路実績向上を目指し、教科担任による補習の充実を図るとともに、キャリアガイダンスルームも整備している。また、生徒一人ひとりの進路希望に沿った指導が行われており、総合型選抜や学	①教材や大学受験の情報資料、自習室の整備を進め、生徒が主体的に自習に取り組む力を高めた。校内での自学自習の時間の確保することが課題である。	①学校での自学自習を促進するための環境（施設、時間）改善をさらに進める。  ①補習講座等を進路グループがレベル別に企画し、組

		援し、進学実績の向上を図り、学力向上進学重点校の指定を目指す。  ②生徒の進路希望実現を援助するため、社会の動きに即してあらゆる面で環境を整える。	べての取り組みを改めて検証、見直しを行い、改善や拡充を行う。	的に行う。  ②課外講習の在り方を検討し、生徒の学力に応じた適時性の高い講習を恒常的に行う体制を整える。  ②試験のスケジュールを見直し、生徒が自身の学習や進路に対する意識の醸成に資するよう振り返りや面談を充実させる。	②全学年において課外講習が活性化したか。またそれに応じて生徒の学習に向かう態度や成績に向上が見られたか。	②課外講習・補習の運営方法を簡略化し、教員が取り組み、生徒の参加をし易くした。夏期以外の恒常的な補習が行われるようになった他、3年生の受験前補習が増加した。	②課外講習・補習の実現を促すために教員の就業環境を整え、併せて生徒が参加しやすくなる時間割や部活動、行事の進め方を検討していく。	校推薦型選抜など的一般選抜以外の進路選択についても積極的に進めている。	①生徒との面談を充実させ、総合型選抜等の入試における合格につなげた。より高いレベルの大学に対応するための補習や指導を増設することが課題である。	組織的に運営する。
4	地域等との協働	①探究活動を通して得た知見を、社会に発信したり、近隣の小中高等学校と共に探究活動を行う等して、科学の普及や地域活性化に繋げる。  ②コミュニティスクールを活用した地域との連携をより一層深めるとともに、開かれた学校づくりを継続して推進する。	①SSH 事業による探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ積極的に発信し、地域社会における科学の普及や地域の活性化につながるネットワークの構築を図る。  ②教育活動の家庭や地域への適切な発信方法について検討し、開かれた学校づくりに取り組む。 ②生徒・保護者や近隣住民が参加できる地域連携を具体化し、家庭・地域の教育力を本校の教育活動・地域貢献につなげる。	①各種コンテストや学会への挑戦を促す。また、それらにより得た知見を活かした生徒による「地域科学教室」の実施を支援する。  ②コロナ禍以前に行われていたオープンスクールの実施について、可否を含めた具体的な方策を検討する。 ②防災訓練をはじめとした地域活動への生徒の参加について、学校が果たすべき役割を具体的に検討する。 ②ボランティアバンクの再開を受け、家庭・地域へ拡大したボランティア活動を進める。	①各種コンテストへの参加が昨年度より増加したか。 ①アンケートにおいて生徒の主体性・積極性に関わる変容が見られたか。 ①生徒主体の地域への科学教室が実施できたか。  ②オープンスクールの目的・形態等を検討できたか。  ②生徒の地域活動への参加の機会を確認し、具体的な参加につなげることができたか。  ②ボランティアバンクの活動を拡大することができたか。	①SSH NEWS を定期的に作成し、HP 等で公表することで、探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ発信することが出来た。  ①各科学技術コンテストに 12 名が参加した。 ①地域への科学教室を実施することが出来なかったが、中学校や小学校と連携して探究活動を実施することが出来た。  ②地域貢献としては地域清掃の実施にとどまり、防災訓練等への参画は見送られた。  ②PTA や同窓会と協働して花壇整備、ベンチづくり等のボランティア活動を行った。	①SSH NEWS ニュースの内容の高度化と発行頻度を上げることが必要である。  ①参加する科学技術コンテストに偏りがある為、様々な分野に挑戦する土壌を作っていく必要がある。  ②地域の防災訓練への参加を検討し、具体的な地域貢献活動を模索、実践する。 ②地域住民による学校支援ボランティアバンクの再開について検討する。	SSH 事業では、地域の企業・研究所・大学等と連携して探究活動を行い、SSH NEWS を作成するなど、広報活動にも努めている。また、近隣の小学校とのコラボレーションや地域清掃などのボランティア活動を通じて、生徒の社会性や地域貢献意識が育むとともに、保護者や地域住民とのコミュニケーションを積極的に行之い、信頼関係を築いている。	①毎年一定数の生徒が各種コンテストへ参加している。今後、参加者をより増やしていくとともに、成果を上げられるような支援体制を構築する必要がある。  ②地域の学校関係者より活動状況を伺い、地域行事への参画についての課題を明確化することができた。 ②PTA と同窓会の協働ボランティア活動を定例化することに努めた。	①教科の授業や、部活動と連携し各種コンテストの周知を図る。勉強会を開くことで、参加を促し、成果につなげていく。  ②地域の実態を踏まえ、地域住民と学校との連携について検討を進める。 ②地域の祭事、防災訓練等に生徒会活動としての参加方法を検討、実践する。
5	学校管理 学校運営	①学校ホームページの全体構成や内容を見直し、外部への情報発信の強化に努める。特に部活動や学校行事、SSH事業の情報発信の充実を図る。 ②広報活動に関わる生徒の継続的な活動を支援し、生徒目線による学校の魅力を外部に発信する。  ③教職員のワークライフバランスを充実させ、心身ともに健康で、心にゆとりを持てるような働き方の改革をにすすめる。  ④教育環境の整備や施設の老朽化対策整備を行う。	①ホームページの全体的な見直しを行うとともに、PTA広報紙の一部を学校ホームページ上で公開する。  ②全公立展、公私合同説明会、学校説明会で生徒主体の開催を実現する。  ③働きやすい環境づくりや ICT を活用した業務の効率化を進め、教職員の在校時間を縮減し、心身ともに健康で安全・安心な働き方を追求する。  ④教室整備や清掃活動等における課題を整理し、適切な教育環境のあり方について共有を図る。  ④施設の増改築に向けて同窓会と連携し、「まなびや基金」の寄付をできるだけ多く募る。	①他校のホームページを参考に、デザインや構成、内容を変更する。また、PTA担当グループと連携を取る、PTA広報委員会の保護者と打ち合わせを行う。  ②新入生オリエンテーションで広報タスクフォースの生徒が活動内容のプレゼンを行い、4月中に1年生を交えた会議を開催して広報活動準備を開始する。  ③職員の負担軽減のため、業務の精選、分担の見直し等を行い、不要な業務を削減する。  ④教室内の物品、掲示等の整理、活用について検討を進めるとともに適切な清掃活動の実施に向け、清掃用具の点検・整備を進める  ④「まなびや基金」活用に向けて教育局行政部財務課と調整し、必要な手続きを行う。	①ホームページの見直しができたか。PTA広報紙の一部を学校ホームページで公開できたか。  ②年間を通じて生徒たちが学校説明会等で活躍できたか。  ③業務の精査、見直しによるスリム化により長時間勤務の職員が少なくなったか。  ④教室の環境整備の改善や清掃活動を支障なく行うことができたか。  ④「まなびや基金」を活用した寄付受入れの手続きができたか。	①PTA 広報紙を学校ホームページに掲載し公開できた。昨年度よりも日常の取り組みの発信が増えた。  ②全公立展、公私合同説明会、学校説明会において生徒が中心的に関わり学校の魅力と特色をPR できた。  ③会議に向けたペーパーレス化やチャットの効率的活用を行い、業務のスリム化に取り組んだ。  ④日常の清掃活動に加え定期的な大掃除の実施により適切に環境整備を進めることができた。  ④ホワイトボードの活用により教室内掲示が整理され、フロントゼロが徹底されている。  ④同窓会と連携し、「まなびや基金」活用に向けてセミナーホールの改修に向けて取り組んだ。	①ホームページのデザインや構成はCMSに全県で統一されているため、自由に変えられる。発信情報を適切なページで見られるようにHPの運用に努める。 ②スライド作成や動画製作ができる生徒が少ないため、今後はICTのスキルの高い生徒の協力を取り付ける必要がある。  ③一層のペーパーレス化やICT活用による校務処理の簡略化を図っていく。  ④トイレ清掃について業者委託の回数を増やすことを検討する。  ④学校説明会前清掃が求められないよう日常の清掃活動を工夫する。  ④「まなびや基金」の寄付金の広報活動の強化や効果的な運用に関して継続的に取り組む必要がある。	教職員の業務を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図り、業務分担の見直しによる業務削減や、時間外勤務時間の削減など実効性のある働き方改革に努めている。また、HPをはじめとしたツールを活用し、学習環境の円滑な運営及び学校からの積極的な情報発信の充実を図り、透明性も重視している。学校説明会においても、生徒が主体的に対外的な説明を行っており、生徒・教職員の一体的な取り組みは評価できる。  ③企画会議、職員会議、成績会議等の資料を暗号化やteamsを利用してペーパーレス化した。 ④校内美化活動が生徒の主体的な取り組みとして日常化できるよう努めた。	①PTA との連携も進み、充実した情報発信ができた。学校ホームページおよび X(旧 twitter) の発信回数が増えた。一方で、今後は情報発信の頻度を継続的に上げていくことが求められる。 ②生徒との連携が進み、充実した学校説明会が開催された一方で、従来のスライドのデザイン変更など内容のアップデートが課題である。 ③企画会議、職員会議、成績会議等の資料を暗号化やteams を利用してペーパーレス化した。 ④校内美化活動が生徒の主体的な取り組みとして日常化できるよう努めた。	①担当者の設置によって円滑な業務推進ができたが、頻度の底上げが重要である。リーダーによる進捗確認を強化したい。 ②継続的に生徒による主体的な広報を実施するよう指導していくとともに、生成 AI の活用など新しい技術を用いての新たなスライド作成に挑戦したい。  ④学校美化活動が生徒の愛校心につながられるような方策について検討する。 ④「まなびや基金」の寄付金の広報活動に関して継続的に取り組む必要がある。

